マンガで読むNHKヒストリー

第6話 テレビを見ない時間帯を変えた“朝ドラ”

1年間撮影するのは、出演者もスタッフも大変。

はい 脚本できた

早く早く！追いつかないよ！

大丈夫？

疲

第15作「水色の時」（1975年度前半）

東京制作

大阪制作

第16作「おはようさん」（1975年度後半）

第15作から半年になり、準備期間がとれるように東京と大阪で交互に制作されるようになった。

再び1年間で制作されたのは、テレビ放送30年を記念した第31作「おしん」。62・9％というテレビドラマ最高視聴率を記録した。

しかし、成年期のおしんを演じる田中裕子が過労で入院することになる。

1か月は休ませてください

……！

どうするの？

少女期のおしんを演じた小林綾子が山形を紹介する番組を朝ドラの時間に放送してつないだ。

おしん

朝ドラは、その時代の女性の生き方を反映する番組でもあった。

最初の10年ほどは、戦争体験の二代記が共感を呼んだ。

第12作「藍より青く」（1972）
戦中に結婚し、夫を失った女性が上京
真木洋子

第14作「鳩子の海」（1974）
原爆で記憶を失った戦争孤児
藤田美保子
斎藤こず恵

しだいに社会進出した女性を描く話が多くなる。

第17作「雲のじゅうたん」（1976）
パイロットをめざした女性
浅茅陽子

第23作「マー姉ちゃん」（1979）
漫画家・長谷川町子一家
熊谷真実

第25作「なっちゃんの写真館」（1980）
カメラマンをめざした女性
星野知子

日本の成長とともに朝ドラも様変わりしてゆき…

世代観が違う母と子をダブルキャストにした作品も現れる。

第42作「青春家族」（1989）
デパート勤めの母とマンガ家志望の娘
清水美砂
いしだあゆみ

第45作「京、ふたり」（1990）
離婚して自立した母と跡取り娘
山本陽子
畠田理恵

最近は、等身大の女性を描くことが多くなるとともに…

第91作「マッサン」（2014）
初の海外からのヒロイン
シャーロット・ケイト・フォックス

第75作「芋たこなんきん」（2006）
37歳から物語が始まる
藤山直美

第62作「私の青空」（2000）
シングルマザーのヒロイン
田畑智子

第77作「ちりとてちん」（2007）
ネガティブ思考のヒロイン
貫地谷しほり

第64作「ちゅらさん」（2001）
続編を4本制作
国仲涼子

さらなる挑戦も続けられている。